

宮沢 仁朗

皆さんは、慣れている道にもかかわらず目的地になかなかたどり着けない、道に迷いやすいということはありませんか。

実は、道に迷いやすい傾向は、認知症疾患の半数以上

レビドラマなどで、自宅がわからなくなり警察に保護される場面を目にしたことがあると思いますが、その状態も典型的なアルツハイマー病の症状です。

物忘れ外来で認知機能を調べる時には、まず記憶記銘力と見当識を検査しま

# 医療・福祉NOW

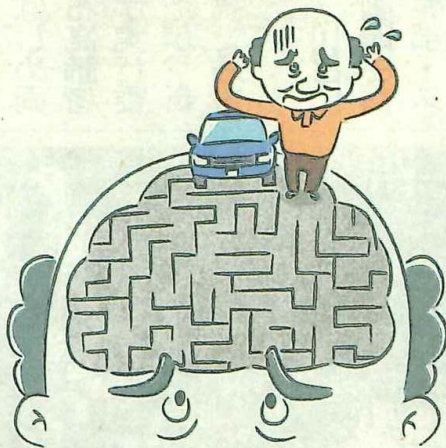
上の割合を占めるアルツハイマー型認知症（アルツハイマー病）の重要な初期症状の一つなのです。最近高齢ドライバーの自動車事故が急増していますが、中でも高速道路や一方通行の道路を逆走して事故を起こす高齢ドライバーの多くは、アルツハイマー病であると

言われています。また、テ

誰かわからなくなって、例えば夫を近所のおじさんなどと誤認するようになりま

す。物忘れが目立たないにもかかわらず、いきなり道に

## ▶「最近、道に迷うことはありますか？」



イマー病では道に迷いやすくなるのでしょうか。私たちの大脳は「前頭葉」「側頭葉」「頭頂葉」「後頭葉」の四つの領域に分けられます。おのおのの部位で機能

側面にある記憶中枢の海馬とともに「頭頂葉の血流・代謝が低下する傾向にあり、そのため空間認識・記憶の障害が現れ、道に迷う症状が顕在化します。」立方体を見ながら模写する検査」や、75歳以上の自動車免許更新などで実施される「時計文字盤を円に記入する検査」も主に頭頂葉の機能を診ることを目的とします。

迷うケースも少なくありません。特に65歳未満の若年性アルツハイマー病では地誌的見当識障害といって、迷子になる症状が前景に立つと言われています。

それではなぜ、アルツハイマー病では道に迷うこと

が異なり、中でも「頭頂葉（頭のとっぺんの部分）」が場所などの空間を認識して位置関係を把握して記憶する能力を有しています。そしてアルツハイマー病では病初期より、（側頭葉の内

（亀田北病院院長）